

出前授業 その2 6年生社会「縄文のむらから古墳のくにへ」

授業時間の目安・・・45～90分

出前授業実施事例・・・（90分の場合）

学校側のねらい

- ・三内丸山遺跡などの本物の具体物を見る・触れる・感じるという体験を通して、縄文時代の生活を知り、歴史学習への興味・関心・意欲付けを高めるとともに、郷土の高い歴史的文化をとらえさせる。

郷土館の手立て

- ・貝塚からの出土品や石鏃、土器片などの具体物を見たり触ったりしながら、縄文時代の生活について考えさせ、高い文化を持っていたことに気づかせる。
- ・道具の名前や使い方を理解した上で、体験活動を行う。

本時の学習活動

教師の働きかけと児童の活動	郷土館職員の動きと留意点
1. 郷土館職員の紹介（5分） 2. めあての確認	・自己紹介と活動の確認
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 実物にさわって、縄文時代の人々の生活を調べよう </div>	
3. 実際の資料を見たり触ったりして、どのような生活をしていたのか考える。 【どんなものを食べていたのか】（10分） 貝塚の出土品を班ごとに配り、実際に見たり触ったりして、食べていたものを考える。 【どうやって食べ物を手に入れたのか】（10分） 石鏃を班ごとに配り、実際に見たり触ったりして、何に使った道具かを考える。 【どうやって食べていたのか】（10分） 土器片を班ごとに配り、実際に見たり触ったりして、何に使った道具かを考える。 【火はどうやってつけたのか】（10分） 縄文時代の火の付け方について解説を聞く。 【どんな服を着ていたのか】（10分） 装飾品を班ごとに配り、実際に見たり触ったりして、どのような道具であるか考える。	・必要な場面ごとに各学芸員が解説する。 ・貝類、魚、動物のほかにも植物や木の実など季節ごとに様々な食料を手に入れ、保護し、飢えることがなかったことに触れる。 ・石器や石斧など今の道具と比べても遜色のない生活の道具も解説する。 ・土器の模様の付け方にも流行や上手下手があることに触れる。 ・縄文時代の火の付け方について解説する。 ・装飾品の製作には高度な技術が見られることに触れる。
4. 体験活動（30分） <ul style="list-style-type: none"> ・縄文人の格好をしてみよう。 ・石のナイフを使ってみよう。 ・土器の模様をつけてみよう。 ・火を起こしてみよう。 	・グループに分かれてローテーションしながら体験する。
6. 学習のまとめと感想発表（5分）	

※地域にある遺跡を取り上げて解説することもできます。ご相談ください。